

*1 情報保障席

聴覚に障害のある人に情報を保障する席のことです。

講師の口元が見やすく、手話通訳者の正面に設置することが大切です。口元を見ることにより読話を行うことができます。同時に FM 補聴器や磁気ループの使用などで音声情報が増えることが期待できます。

*2 ノートテイク

学生への支援活動としてはもっとも一般的なものです。

かつては友人にボランティアで行ってもらうことが多かったですが、現在は学校側で支援体制を整えるところも増えてきました。

社会的にボランティアとして要約筆記をしているグループもあります。

通常ノートテイクは右側に座ります。(ただし、左利きの場合は左側に)

*3 手話通訳

手話通訳はそれぞれの市町村に依頼したり、大学などの手話サークルにサポートしてもらうなどの方法があります。講義の内容のほとんどが伝わります。しかし、内容が分からないまま通訳したために「誤って通じる」ということがおこったり、支援者に対して要望があっても言いにくいなどの問題があります。

*4 FM 補聴システム

FM 補聴システムはマイクと補聴器で構成され、FM 電波を利用するものです。持ち運びが自由で、操作も簡単です。

講師が FM マイクで話し、聴覚障害学生が FM 補聴器で聴きます。マイクは学生が教室移動のたびに持ち歩き、その時間の担当講師に使用してもらいます。

*5 アンケート

互いの信頼関係を築くため、また何がわからなかったかを確認するために有効な手段です。

- ・授業内容はどの部分がわからなかったか？
- ・言葉・板書内容などは適切であったか？
- ・その他

参考資料

- 日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク PEPNet-Japan
「トピック別聴覚障害学生支援ガイド」2008 年 10 月 26 日発行 (PDF ファイルダウンロード)
- 筑波技術大学 <http://www.tukuba-tech.ac.jp/>
- 聴覚障害学生サポートガイドブック～ともに学ぶための講義保障支援の進め方～
監修 斎藤佐和 著者 白澤麻弓 徳田克己 日本医療企画
- 全日本ろうあ連盟 Web ページ <http://jfd.or.jp/>
- 北海道ろうあ連盟 Web ページ <http://www.normanet.ne.jp/~h-f-deaf/>



047-0261 小樽市銭函1丁目5番1号

TEL 0134-62-2624(事務室) 0134-62-2708(職員室) FAX 0134-62-2663(事務室) 0134-62-2625(職員室)



北海道

コミュニケーションを スムーズにするために

～つたえたい・わかりたい・ともに～

大学・専門学校編

はじめに

本校は北海道で唯一の聴覚に障害がある生徒のための高等学校です。聴覚に障害を生じると、聞こえないまたは聞こえにくいために、情報が入りにくい状況になりがちです。

本校では、生徒たちが「自ら考え解決しようとする力」を伸ばすために、「自らが感じとり、行動し体験を積み重ねること」を大切に考えております。その中で、特に大きく関わってくるのがコミュニケーションです。コミュニケーションは、お互いの関係、また周りの状況にも大きく影響され、社会の一員として生きるために必要なものです。

これから始まる生活「新しい出会い・環境」は、いつも期待と不安でいっぱいです。それぞれの地で、共に生活するための参考になればと、このマニュアルを作成しました。

すぐにできるもの、時間が必要なものなど様々な方法がありますが、最も大切なのは「あきらめずに関わっていかうとする気持ち」かも知れません。

このマニュアルが、今後とも多くのみなさまに活用され、改善の一助としての役割を担っていただけるように願っております。みなさまのご意見、ご要望等をいただければ幸いです。

北海道高等聾学校コミュニケーション委員会

北海道高等聾学校

大学・専門学校編



大学にお願いしたいこと

- 情報が聴覚障害の学生に伝わりやすいような席を本人に確認して、「情報保障席」として常に確保してほしい。（＊1）
- 諸連絡は「メール」などで伝えてほしい。



- 「ノートテイカー」や「手話通訳者」など、情報保障スタッフの育成に協力してほしい。（＊2, ＊3）
- 情報保障スタッフを依頼する際の、窓口を作してほしい。
- プロジェクター、スクリーン、パソコン、マイクなど視聴覚情報機器の整備と活用を図ってほしい。

学ぶ聴覚障害者として

- 自分が聴覚障害者だということを、周囲（先生、友人、大学関係者）にわかってもらう。
- サークル活動などに参加し、仲間をつくる。
- 情報を得るための努力を積極的にする。
- 補聴器の活用、読話しやすい席の確保、手話通訳やノートテイクの依頼。（ボランティアグループ、市町村福祉課、ろうあ者団体などへ）

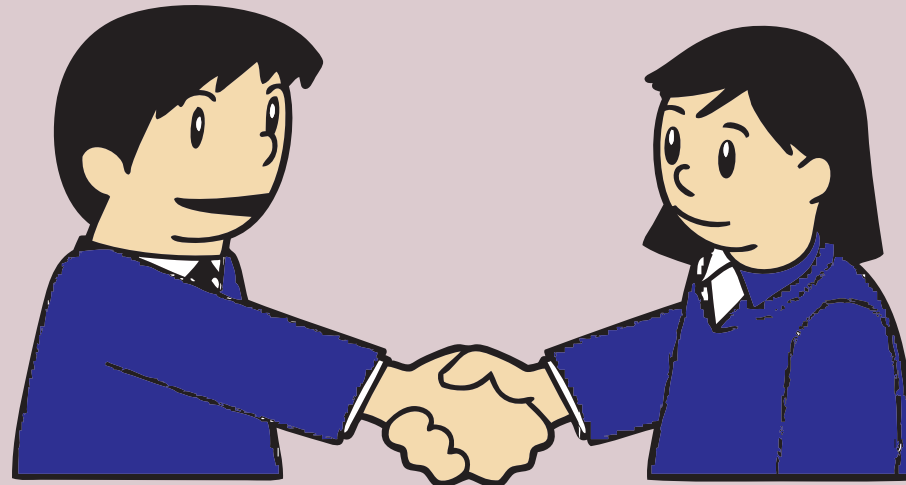
まずは学生課に相談しよう！
担当の先生にもごあいさつ
しなくちゃね。



話すときは合図をしてください。声をかけてくれたり、手を振ってくれるとか、肩を軽くたたいてくれてもOKです！

何と云っても、持つべきものは**友だち**！
助け合ってこそ学生生活！

お互いに尊重し合う

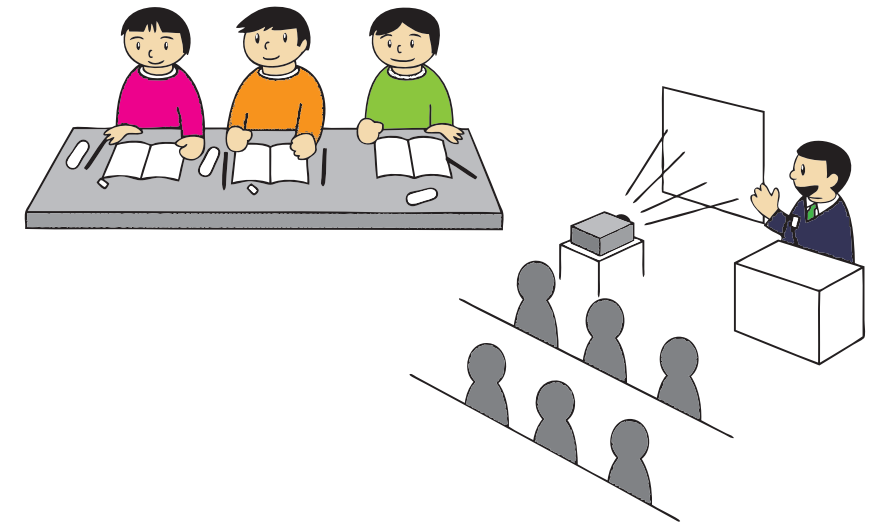


心のバリアフリー

聴覚に障害がある学生が、一緒に学んでいることを教室全体が意識すると、支援のための環境が生まれます。

講義される先生にお願いしたいこと

- 情報保障スタッフ（手話通訳者、ノートテイカーなど）が**教室に入ることを許可**してほしい。
- 重要事項や連絡などは板書したりカード、フリップを使うなど**文字化**してほしい。
- 「FMマイク」を使ってほしいと依頼があれば受けてほしい。（＊4）



- 普段よりも**大きく口を開けてゆっくり**と話してほしい。
- 聴覚障害学生に、話している**口が見えるように**してほしい。（板書しながらや、横を向いて話さないでほしい）
- 話し始める時や話題を変える時などは、それがわかるよう聴覚障害の学生に**注意を促して**ほしい。（手を上げる。手を振る。手をたたくなど）
- プリントなどの資料は、可能であれば**事前に渡して**ほしい。
- プロジェクター、OHP、VTR、図・表などを活用してほしい。
- 理解されたかどうかの確認は「アンケート」などが有効です。（＊5）

